

2023年度 ドコモ市民活動団体助成事業 活動成果報告書

2024/9/30

団体名		NPO法人はちろうプロジェクト	活動タイトル	“八郎潟モグリウム”による、水草とミジンコとトンボと人の交流プロジェクト	
活動対象地域における生物多様性の保全に関する現状と課題				■活動風景	
当法人の活動フィールドである秋田県八郎湖は、かつて八郎潟と呼ばれ日本第2位の面積と豊かな漁場を誇っていた。しかし、戦後の国策による大干拓事業により約8割が陸地化して八郎湖となり、残った約2割の面積には干拓地の田んぼなどから流入する農業排水の影響により水質が悪化。慢性的なアオコ発生被害に悩まれ、“モグ”と呼ばれた水草（沈水植物）は姿を消してしまった。かつては子どもの遊び場であった八郎潟は、現在では学校から「危険だから近づくな」という指導がされており、地域の子どもたちに馴染みの薄い場所へと変わってしまっている。当法人は設立以来、そうした八郎湖の現状を子どもたちに伝え、関心と愛着を持たせるための環境教育を実践してきた。 当法人が千葉県立中央博物館・林紀男氏を講師に招いて行う主に小学生を対象とした出前授業では、「八郎湖の水をきれいにする救世主はミジンコである。ミジンコはアオコを食べ水をきれいにする能力がある。しかし、現状ではミジンコの隠れ家となる水草（モグ）が少ないため、ミジンコが増えにくい。水草を復活させ、ミジンコがすみやすい環境を作れば、生きもののにぎわい（生物多様性）が生まれ、食べる食べられるの関係（食物連鎖）を通じて水もきれいになる。」という内容の話をしていただき、コロナ禍を除き毎年10回以上を実施している。この授業内容を観察・実践できる場として“八郎潟モグリウム”がある。2019年に井川義務教育学校に設置したのを皮切りに、地域の小学校、高校、大学、公園など11カ所に広がった。また、2023年3月には林氏の協力によりモグリウムの目標や観察できること、活用方法などをわかりやすくまとめた「モグリウムガイド」を完成させ、今後の探究学習や研究活動に活用してもらおうと配布を始めた。これにより、八郎湖流域内での生物多様性保全と、人の学びや交流を両立させていきたいと考えている。				名取氏、教養大生2名の他、はちろう学生部メンバーの秋田県立大学生1名も参加し、大学生間のちょっとした交流にもつながった。  2024/5/13国際教養大学モグリウム設置	
■活動報告 <400字程度>		■1年間の目標に対する達成状況(まとめ)			
①モグリウム新規設置 2024/5/13に国際教養大学へのモグリウム設置を行ったことにより、名取洋司准教授が八郎湖やモグリウムの活動に関わるようになり、②の報告会にもつながった。また、教養大で林紀男氏の講義を行い、教養大生の「はちろ学生部」メンバーも5名程加わった。 また、5/21に古民家・湖北邸へのモグリウム設置、翌日5/22に地元湖北小学校5年生とモグリウムへの水草植付け体験を行った。これにより、今年度の湖北小での出前授業機会が増えた他、8/18には湖北邸が企画したモグリウムの顕微鏡観察会で県内の親子連れたちにミジンコなどを見てもらうことができた。 ②八郎潟モグリウム活動報告会の実施 ①で“30by30”を専門分野とする教養大・名取洋司氏に依頼し、“自然共生サイト”認定に向けて学芸会として、2024/7/6に実施した。参加者は25名。当法人によるモグリウム活動報告、教養大4年・伊藤志帆氏による発表、名取氏による講演を行った。質疑応答が閉会まで途切れず、今後に向けた手応えを感じられた。		①モグリウム新規設置 ・新規モグリウムを2カ所設置し、計15カ所となった。 ・はちろ学生部や高校生などに協力してもらい、各モグリウムの定期調査を月1回程度行った。それぞれ水草の生育や水生生物の状況が異なることが分かった。集まった調査データはGoogleドライブに保存し、公開している。 https://drive.google.com/drive/folders/12N-_7m9t-cS9w5ym9L7Fms2y4Hi1q80b?usp=drive_link ・地域イベントや出前講座の一環で顕微鏡観察会を複数回行った。各モグリウムにミジンコがすんでいることが確認された。 ②八郎潟モグリウム活動報告会の実施 ・“30by30”“自然共生サイト”について参加者25名が学ぶことができた。 ・報告会の動画を当法人Youtubeチャンネルで公開した。 https://www.youtube.com/@npo7837 ・目標には届かなかったが、モグリウムX（旧twitter）のフォロワーが30→57に増加した。			
■事業を通じて得られたノウハウ		■望ましい社会状況を達成するための課題			
・国際教養大学・湖北邸にモグリウムを新規設置し、15カ所となった。 ・国際教養大学・名取洋司准教授とつながりができ、八郎湖の自然共生サイト認定に向けて有な協力者を得られた。 ・国際教養大学生がはちろ学生部に参加した。 ・教養大4年・伊藤志帆氏の発表から、当法人の活動に関わることで教養大生はローカルな視点を得られることが分かった。逆に、我々は教養大生と関わることでグローバルな視点を得られて、お互いにより刺激が作れそうだと感じた。 ・三種町初のモグリウムを設置できた。水草が順調に生育し、水生生物やミジンコも増えてきていることが確認できた。 ・熱心に活動する地域住民団体との交流ができ、はちろ学生部メンバーが餅つき・竹刈り・顕微鏡観察などを通して地域と関われる場が増えた。 ・湖北邸から程近い湖北小学校とのつながりが強くなり、八郎湖の学習を行う機会が増やせた。 ・“30by30”“自然共生サイト”について知り、今後の八郎湖が目指す目標となり得ることがわかった。 ・当初計画していた「モグリウム通信」発行は、モグリウム関係者間のネットワーク強化を狙ったものだったが、これは定期的に顔を合わせる場を作る方がよいだろうと考え直し、2024年4月からオンライン定例会を月2回程度行い始めた。		モグリウムの活動は2023年に秋田県環境大賞、2024年に環境省の地域環境保全功労者表彰を受けた。近年の生物多様性への注目度の高まりも相まって確実に周囲からの関心は高まってきており、手賀沼流域フォーラムとのつながりや仙台のビオトープフォーラムへのポスター出展などにもつながった。モグリウムの設置数は十分増えてきているので、今後は関係者間のネットワークを強化し、活動成果を八郎湖の環境再生につなげていくための体制作りが重要になってくると考えている。そのためには、活動に主体的に関わる学生や地域住民を増やすこと、そしてそれを継続的な運動としていくための当法人の事務局体制強化（現在は職員1名）が必要となる。 この課題を解決していくため、八郎湖の自然共生サイト認定は有効な手段の一つになり得ると考えている。認定に向けた活動を通して、当法人が関わる小・中・高・大学生および地域住民が地域資源としての八郎湖を見直すことができる。また、先日オンラインで「30by30に係る経済的インセンティブ等検討会」を聴講したが、そこで説明されていた制度作りが実現すれば、当法人の運営面にもプラスが期待できる。ただし、これは名取氏らを含めた一部の人間だけの話である。流域が非常に広く、利害関係も極めて複雑な八郎湖において前向きに話を進めるためには、地域をある程度絞り込み、利害関係者にそのメリットをしっかりと説明できるよう、慎重な準備が必要になるだろう。			
■活動成果のアピールポイント（自由記入）					
この1年間の活動を通じて		新たなつながり作り（国際教養大学生、名取洋司氏、湖北邸、湖北小学校など）		を達成しました。	
■受益者の具体的な変化（自由記入）					
国際教養大学4年・伊藤志帆さんのインタビュー記事 https://web.aiu.ac.jp/aiutopics/83358/?fbclid=IwY2xjawFaQptleHRuA2FibQIXMAABHYx3W64-D-TqivP0a9bQrKGN-JQh3jEY34vD9oBa85CuNHlvm82W5CY2Jg_aem_qDDmmZDvLw9Uec0JsZz3IQ					